

令和2年度 我が校の学ぶ力向上策(実施計画)

【市町 目標】
 ○知・徳・体の調和のとれた米原の子どもの育成—米原っ子に「生きる力」を一

【学校 目標】
 ○伊吹山のように **自信と誇りをもって たくましく生きる伊吹の子**
 ①・意欲をもって学ぶ子 ②・ふれあい 思いやる子 ③・きたえ やりぬく子

【現状と課題】
 ○(視点1)本校児童には、物事を進んで追求する意欲や向上心に低さが見られる。教員は、「読み解く力」の育成に関わるイメージをもてるようになってきているが、日々の授業での実践については不十分と感じている。
 ○(視点2)本校児童は、自己肯定感が低く、自信をもって進んで取り組むことを苦手とする傾向がある。
 ○(視点3)昨年度、算数科に絞り課題解決型の学習に取り組み、探究的・協同的な学びを進めることができた。しかし、日常的に課題解決学習を行うまでには至っていない。

取組		
視点1	視点2	視点3
学びを実感できる授業づくり	学ぶ意欲を引き出す学習集団づくり	子どものために一丸となって取り組む学校づくり
【取組事項】 ○校内研究で取り組む「課題解決学習」を工夫して計画・実践することにより、児童が主体的に学習し、より深い学びとなるようにしていく。 ・児童が主体的に学んでいけるよう、課題解決的な単元構成を工夫する。特に算数科では、算数的活動を取り入れた「探究的な」「協同的な」学習展開の工夫に取り組む。 ・「読み解く力」育成の3つのプロセスを意識することで、学習指導の質を高める。 ・教師は子ども達の学習を丁寧にとり、その子なりの解決ができるよう支援する。	【取組事項】 ○生徒指導の3機能を生かした授業づくりを推進する。 ・授業の中で、すべての児童がまず自分の考えが持てるようにしていく。【自己決定の場】 ・そして、他者との意見交流を通して改善する(再構築)などして学習が発展し、互いを認め合ったり自信がより高まったりするようにしていく。【共感的人間関係の育成】 ・すべての児童が考えたことを発表できる機会を設定する。発表内容に関わらず、発表できたことを共感的に受け止め評価する。またそのように受け止められる学級づくりをする。【自己存在感を高める】	【取組事項】 ○「校内研究会」の運営・組織を活用して、子どもたちが主体となって学ぶ課題解決型の学習を進める。 ・低・中・高学年毎に授業研究会を行う。 ・少人数のよさを生かし、児童一人ひとりに光を当て、各自が自分の考えをもって学習できるようにする。 ○OJTを活用して、組織的に校内研修を進める。 ・グループリーダーを核として若手教員による研究を進める。 ・校内の初任者研修(講義・授業等)を活用し、校内の学び合いの輪を広げる。

その他 取組事項
 ○「書く」力を付ける。字数や時間、キーワードを与えるなどの制限を付けて書かせるようにする。
 ○読書の習慣化や詩の暗唱、新聞等様々な文や資料を読む機会を増やすなどし、言語環境の充実化に取り組む。
 ○通常の英語学習に加え、モジュール学習も行い、英語科の学習の充実を図る。
 ○「ガッテン!!プリント」等を活用して基礎学力の定着を図るとともに、個に応じた指導を進める。

取組の評価

※プランに示した数値目標は、県教育委員会の取組の指標です。学校の評価指標は、それぞれの課題等の状況に応じて設定することが重要です。

	取組事項	評価指標	1回目評価	2回目評価
全体				
視点1	「課題解決学習」を工夫して計画・実践することにより、児童が主体的に学習し、より深い学びとなるようにしていく。	保護者アンケート「子どもは、学習内容がよくわかり、基礎的な学力が身についていますか。」75点以上。児童アンケート「授業中、自分の考えをはっきり言えた。」肯定評価80%以上。		
視点2	生徒指導の3機能を生かした授業づくりを推進する。	保護者アンケート「子どもは、学校は楽しいと言っていますか。」75点以上。児童アンケート「学校は楽しいですか。」肯定評価80%以上。		
視点3	「校内研究会」の運営・組織を活用して、子どもたちが主体となって学ぶ課題解決型の学習を進める。	職員の学校評価「課題解決型の授業展開の実践」で5段階のうち4以上の平均評価。		
視点3	OJTを活用して、組織的に校内研修を進める。	職員の学校評価「校内研修の実践」で5段階のうち4以上の平均評価。		
その他	学校ぐるみで工夫してまた継続して取り組み、児童の「書く」力を伸ばすようにする。	職員の学校評価「書く機会を多く作る。等」で5段階のうち4以上の平均評価。		

評価:【達成状況 90%以上→A 70%以上90%未満→B 70%未満→C 時期→1回目:9月 2回目:2月】

今年度の取組の課題